

実施要領 様式5 (第7条第2号関係)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念ならびにホーム・ユニット独自の理念も構築している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を周知しており、日々のサービス提供場面において理念に立ち返る様努めている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの見やすい場所に理念を提示し、入居時には本人や家族に説明している。又、運営推進会議において参加者の方に説明するなどの取り組みを行っている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	運営推進会議を契機に地域との交流が図れる様取り組みをしている。地域のネプタや児童センターの児童慰問、中学生の職場体験学習受け入れなどは交流の場として毎年行っている。	○ 今後も運営推進会議を通して地域に働き掛け、地域資源の開拓を図ると共に、認知症に対する理解を深めてもらうなどの取り組みが出来る様に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>ケアカンファレンス等において職員に対し、評価の意義や内容・活用方法等について説明し、結果についても周知する取り組みを行っている。</p>	○	<p>外部評価の結果を基に改善策の検討や改善計画を策定するなど、より良いサービスに向けて取り組んでいきたい。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議ではメンバーに意義や役割を毎回説明している。自己評価、外部評価についても説明・結果の公表を行っている。</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>担当者がパンフレット、広報誌等の配布を行ったり、サービスの課題解決に向けて、行政との連携を図る様努めている。</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>運営推進会議で地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けているが、今現在の利用者に関して事業利用に必要な該当者はいない為、職員が皆制度を理解するまでには至っていない。</p>	○	<p>今後においても、内・外の研修で事業の理解を深め、必要な利用者に対して情報提供や利用につなげる支援が出来る様に努めたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>ケアカンファレンス等で高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をもったり、資料を配布したりホーム内にも掲示している。日々のケア提供場面においては虐待を未然に防げる様努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16</p> <p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動等に関しては、利用者には十分な説明を行ない、馴染みの関係が出来る様配慮している。新しい担当職員にも引き継ぎを詳細に行ない、利用者へのダメージを防いでいる。</p>		
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>17</p> <p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修の情報を提供し、参加を促している。月1回の内部研修受講後は報告書を提出し、日々のケアに活かせるように努めている。</p>		
<p>18</p> <p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会に加入しており、外部研修の機会を得たり、情報を得るようにしている。</p>		
<p>19</p> <p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>何か問題がある場合はお互いに話し合ったりしてストレスをため込まない様に対処している。休憩時間や休憩場所の確保は為されている。</p>		
<p>20</p> <p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の勤務状況並びに個々の努力についても把握しており、保有資格を活かした職員配置等にも留意している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		<p>サービス利用の相談に当たっては利用者本人、家族のニーズを十分把握し、信頼関係を築くことを心掛けている。</p>
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		<p>利用者本人、家族のニーズに対して必要な支援を見極め、柔軟な対応に努めている。</p>
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		<p>本人が安心してホームの生活に馴染める様に家族と連携を取りながら利用者の視点に立った支援を行っている。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		<p>長い人生で培ってきた知恵や能力を活かしてもらえ、お互いに支え合う関係作りに努め、利用者の喜怒哀楽に共感した生活が送れる様にしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や家族の思いを共有し情報交換する中で、喜怒哀楽を共にし、お互いに利用者を支えていくという視点に立って家族に接している。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者と家族が疎遠になっているケースがあり、時間をかけて関係修復が為される様双方に働き掛けを行ない、交流の回復を支援している。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や電話などの取り次ぎを行ない、馴染みの関係が途切れない様にしている。馴染みの場所については家族の協力を得て外出できる様支援している。毎週馴染みの知人宅へ外出している利用者もいる。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人が孤立しない様、利用者同士の関係を把握した上での支援を行なっている。又、トラブルに発展しがちな利用者に対してはお互いを認め、助け合って生活できる様、働き掛けている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用時に築いてきた関係が継続できる様、利用者や家族に伝えている。退居後も必要があっても一か月程、入院時の支援を行ったケースもある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>機会ある毎に本人の希望や意向の把握に努め、利用者の視点に立ってのケアに努めている。又、ホームでの生活に困難が見られる場合は、家族、関係者等より情報収集を行なっている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>プライバシーに配慮しながら利用者を良く知り、より良いケアにつなげる為に生活歴やライフスタイルについての情報収集を行ない、把握に努めている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者の一日の暮らし方、生活リズム、心身の状態については日々把握し、できる力、わかる力を引き出せる様に対応している。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画については利用者及び家族・職員の意見や気付きを反映し、利用者本位の個別・具体的なものとなる様努めている。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の実施期間は明示しているが、実施期間に関わらず利用者の状態の変化や、本人及び家族の希望の変化時には随時の見直しを行なうと共に、定期的に介護計画の見直しを行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者一人一人について、日々の暮らしや身体状況等について記録し、職員の気付きなどを介護計画の見直しに活かしている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制や、移送、外出支援等の自主サービスを提供している。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>運営推進会議を通して地域民生委員等への呼び掛け、ボランティアの受け入れなども行なっている。他、地域資源との協働にも努めている。</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>利用者の意向や必要に応じて他事業所のケアマネジャーとの連携を図り、利用者がより良い暮らしが出来る様支援している。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>現段階では地域運営推進会議において、地域包括支援センターとの連携が為され、関係機関、民生委員との協力体制の構築に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族に相談乃至、同意を得て医療機関を定め、受診内容等についても適宜報告を行なっている。体調変化の場合は速やかに受診する様に努めている。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症の進行、状態変化については専門医に相談を行ない、適切な治療が受けられる様支援している。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所の訪問看護職員と連携を図り、定期的な状態観察と必要に応じての相談により利用者の健康管理、医療活用の支援が為されている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院における医療機関との連携及び利用者・家族への情報交換を行い、利用者が入院時においても安心して過ごせる様支援している。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は早い時期に本人や家族と話し合い、事業所の方針を踏まえて、急変時の対応ができる様情報を共有している。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホーム内で出来る範囲を明確にし、家族へ協力してもらい、医療機関との連携を図り支援するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>46</p> <p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替えによるダメージを最小限に防止する為、家族の協力を得ると共に、利用者に関わる詳細な情報をプライバシーに配慮した上で、移行先へ提供している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1.その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>47</p> <p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者のプライドや羞恥心に配慮した言葉掛けや対応を行なう様に日々努めている。又、利用者の個人情報保護についても気をつけている。</p>		
<p>48</p> <p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>出来るだけ利用者の思いや希望を引き出せる様な対応に努め、自己決定を促す場面づくりを設定している。</p>		
<p>49</p> <p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務優先にならない様、利用者のペースに沿った生活の援助を心掛けている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>50</p> <p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>自分で身だしなみやおしゃれが出来る人にはその人の個性を尊重し、さりげない褒め言葉を掛けている。理、美容に関しても本人の馴染みの店への外出の支援を行なっている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を献立に反映し、各々の苦手なものにも配慮している。昼食は職員も共に会話を楽しみながら摂取し、食事の準備、片付けも毎回利用者を混ぜて行なう様になっている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	病気を契機に飲酒、喫煙をやめた利用者が多い為、盆、正月などの行事にノンアルコールビールの提供を行なう程度に楽しんでいる。おやつ等については個人の状況に合わせて楽しめる様支援している。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作成し、一人一人の排泄パターンを把握している。おむつを使用している利用者はいないが、失禁時の対応は利用者の羞恥心、プライバシーに配慮して行なっている。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間や湯温など、可能な限り利用者の入浴習慣に合わせた支援を行なっている。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の睡眠パターンの把握、必要に応じての薬剤の服用など、状況に合わせて休息をとったり、安眠につながる様な対応に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者各々の生活歴や持っている力を把握し、作業、レクなどを通して役割や楽しみを感じられる様にしている。昔得意だった縫物・編み物・歌・詩吟など個々の力を引き出せる様支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や金銭管理に対する力量に応じて所持できる様支援し、外部行事や買い物の際には、支払いの場面も設定している。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の暖かい季節には、その日の希望に沿って戸外への散歩など取り入れたりして気分転換が図られる様にしている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望を聞き支援できる様にしている。個別には家族との相談の上、外出の機会を家族と共に行なう事が出来る様にも支援している。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話はプライバシーに配慮しながら利用者の希望が叶えられる様、状態を見て支援している。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られる家族や馴染みの人達に対しては、挨拶や声掛けを行い、ホールや居室で落ち着いて過ごせる様な雰囲気づくりを行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は身体拘束の内容やその弊害について理解し、日々のケアにおいて身体拘束は行っていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	交通量の激しい道路に面してホームが立地しており、帰宅願望が高じて戸を開けて外へ出ようとする利用者もあり、安全の為にユニット入り口には施錠を行なっている。家族への説明、同意は得られている。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は勿論、夜間帯においても利用者の所在や様子を把握できる場所に位置し、安全面の配慮に努めている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に合わせて、注意の必要な物品の保管場所や管理について検討を行ない、危険防止に取り組んでいる。状態を見て、本人が必要な時は必ず見守りを行い使用する様にしている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	想定される事故について職員間で共有し、事故等発生については気付きシート・事故報告書等を作成し、再発防止に取り組んでいる。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	管理者は全員応急手当や救急救命の研修は受講している。全ての職員が定期的に訓練を行なうまでには至っていない。	○	全職員が応急手当や初期対応の訓練が出来る様に時間を設けてユニット内で取組んでいきたい。
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定しての具体的な利用者を混ぜての避難訓練を実施しているが、地域の協力を得ての訓練ができていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こり得るリスクについて家族に説明し、利用者の状況変化等に応じて適宜対応策を見直している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全職員が利用者一人ひとりの異変の発見に気付く様、顔色や様子に注意し、記録に残して。必要に応じて医療機関への受診を行っている。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容を理解する様に努めている。飲み忘れや誤薬等が起きない為の支援を行ない、状態変化にも注意を払っている。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘を予防する為の食材や献立づくりを工夫し、適度に身体を動かす声掛けも行なっている。排泄チェック表を毎日記録し、排泄状況を常に確認し便秘症状の改善に努めている。		
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の義歯洗浄や口腔内の清潔保持の為に声掛けを行い、各々の力に応じて、個別の援助を支援している。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量や食事摂取量を把握している。バランス良く食べられるようメニューを考えたり、個々の状態の合わせ食べやすい形態に調理するなど工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関するマニュアル作成が為されており、カンファレンスなどにおいて学習する機会を設けている。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材の使用を心掛け、食材が無駄にならない様冷蔵庫の整理を行なっている。又、台所、調理用具等の清潔保持に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	夏場はプランターに花や野菜を植えて建物の前に置いたり、玄関にも観葉植物や花など飾って親しみのもてる雰囲気づくりを行なっている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間において不快な物音やしゃべり声が出ないように注意している。サンルームからの日差しが眩しい場合にはカーテンで対応し、利用者と共に生活感や季節感の出る飾りつけなどを協力して行なっている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にあるソファーや、サンルームに置いてある椅子などに座って、気の合った利用者同士が会話したり、一人になって過ごす為の場所づくりをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室へは入居前から使用している馴染みの物が置かれる様働きかけを行なっている。</p>	<p>○</p>	<p>持ち込みが少なく馴染みの物が少ない場合には本人及び家族の意向を確認しながら、居心地の良い居室づくりに取組んでいきたい。</p>
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>気になる臭いや空気のだよみに気をつけて換気を行なっている。温・湿度計を設置し、利用者の意見も聞きながら温度調節を行なっている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>要所に手すりを設置したり、一人ひとりの身体機能に応じて、ベッド柵の取り付けなども行ない、安全かつ自立した生活ができる様環境を整えている。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室には一人ひとり違うのれんを下げたり目印をつけたりして混乱や失敗を招かない様、環境面での検証を行っている。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>夏場はプランターに野菜や花を植えたり、敷地内の草取りの作業などを行なったりして活動に活かしている。又、外庭でのティータイムやランチなども行なっている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の方々が各々の持っている力を発揮し、日々の暮らしを生き生きと過ごせる様、身体面のみならず精神面での活動にも配慮し、個々に応じての支援をさせて頂いております。長年馴染んできた生活環境や馴染みの人を大切にし、昔行っていた趣味や特技なども活かして生きがいに繋げられる様、共同生活での利点を生かして認知症の遅延が図られ、利用者の方が安心して暮らせる為に、様々なサービスを提供出来る事に努めております。